

インタラクティブ・アプローチ（授業づくりシート）

本時のめあてや児童に考えさせること、教師の発問や書かせたい振り返りなど、1時間の授業をインタラクティブ（双方向）に構想していきます。

書き込む内容について、きまりは特にありません。誰でも授業づくりに活用できるシートの提案です。

『授業づくりシート』

単元名 円と正多角形（2 / 10）

①教えること
（めあて）

その時間に教えなければならないこと（子どもの目標、めあてなど）
「辺の長さや角の大きさに目をつけて、図形を分類しよう。」

②考えさせること

本時で考えさせること（発問、子どもの反応など）

- 「辺の長さや角の大きさに目をつける」ことの意味
（先ほど先生は、辺と角の数に目をつけて分類してみました。辺の長さや角の大きさに目をつけるってどういうことだと思いますか？）
- 多角形と正多角形の違い
（この図形が多角形か正多角形かを調べるには、どうすればいいですか？）

③問題との出会い

- ・驚き
- ・必然性（解きたい）
- ・既存の知識とのズレ
- ・前時とのつながり

学習意欲を引き出す、主体的な学び手を育てる導入の工夫（問題提示の具体をかく）

- 様々な図形のカードを準備したり、教師が分類の例示をしたりする。
（みなさんにも7種類の図形カードを配ります。辺の長さや角の大きさに目をつけて分類してみましょう。）

インタラクティブ
（双方向）

主体的・対話的な「学びあい」の具体的な姿

- 見通し… 教師の分類の例を見たり、辺の長さや角の大きさに目をつけることの意味を理解したりして、分類への意欲を高めている。
- 自力思考… 辺の長さや角の大きさに目をつけた分類のしかたをいろいろに考えている。
- 集団解決… 分類の観点（どこに目をつけたか）を明確にしながらか分類のしかたについてグループで話し合っている。

④導入から展開への
つながり

本時で押さえてなければならないこと、定着を図る練習問題

- 辺の長さがすべて等しく、角の大きさもすべて等しい多角形
… 正多角形（※ 直線で囲まれた図形は多角形）
- 多角形と正多角形を見分ける方法
 - ① 見た目で判断する。
（辺の長さや角の大きさが明らかに違う → 多角形）
 - ② 定規やコンパスでそれぞれの辺の長さを測る。分度器でそれぞれの角の大きさを測る。

⑤まとめ

⑥練習問題

メタ認知の育成につながる振り返り

- ・ 図形の分類のしかたについて、みんなで話し合うことによって、多角形と正多角形のちがいがよく分かりました。辺の長さと角の大きさに着目すれば、正多角形かどうかすぐに分かると思います。

⑦振り返り